

# 服装におけるイメージ用語のチェックング

石原久代

## On Checking Image-Words in Costume

Hisayo ISHIHARA

### 緒 言

被服の分野においてイメージ用語を用いて官能量を扱った研究は、近年非常に多く行われている<sup>1)</sup>。しかし、それらの研究で用いられているイメージ用語は、それぞれの内容によって研究者自身が適していると考えたものであったり、同類の研究から抜粋したりしたものを用いる場合が多く、必ずしも扱われる試料に適した用語ばかりであるとは限らない。

また、仮に用語は適切であったとしても、その種の研究でかなり頻繁に用いられているSD法<sup>2)</sup>についても3段階、5段階、7段階という評定尺度のなかで、中心に設定される「どちらでもない」の取り扱いに疑問が持たれているにもかかわらず<sup>3)</sup>、検討される機会がほとんどなく現在に至っているといえる。

そこで本研究では、これらの問題を解明する基礎段階として、いくつかの質の異なる試料を用いて官能検査を行い、用いるイメージ用語の適否について検討を行った。

### 方 法

#### 1. 試 料

試料Aグループ; 図1に示したような日常、女子大生が通学服として着用している服種7種を取り上げた。これらの服種は、6名の女子大生に通学服として日常着用しているものを2種

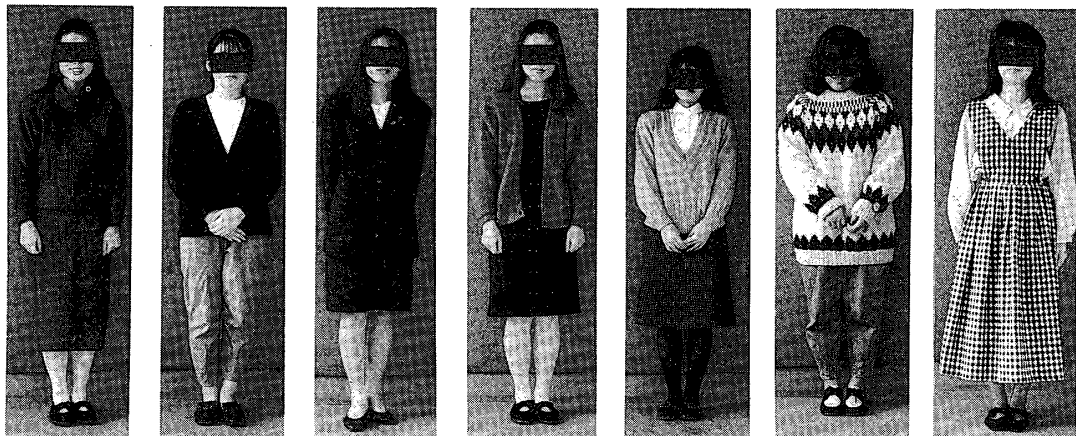


図1 試 料 A

ずつ用意させ、その中から色彩および服種に偏りがないように7種を選出し、それらを着用した状態をモノクロームスライドに仕上げた。

試料Bグループ;形態は長袖、衿なしのベーシックワンピースに固定して、カラーシュミレーション装置により、ベーシックワンピースの色彩を表1に示したように変化させた7種を用いた。表中のx, yおよび輝度は色彩輝度計 TOPCON BM2によりスクリーン上に投影された服装色を測定したものである。

表1 試料 B

No	系 統 色 名	J I S 記号	x	y	輝度(nt)
1	さ え た 赤	4R 4.5/14	0.6526	0.3331	85
2	さ え た 黄	5 Y 8 /14	0.5083	0.4682	205
3	さ え た 緑	4G 5.5/10	0.3444	0.5582	40
4	明 る い 青	5B 5.5/10	0.3134	0.3935	58
5	ブラウンみのゴールド	8YR5.5/11	0.5331	0.4505	82
6	暗 い ブ ラ ウ ン	10 R 3/6	0.5875	0.3896	21
7	暗 い 青 紫	10PB 2/6	0.3052	0.2684	5

試料Cグループ;色彩と形態の両方が影響する試料として、試料Aで取り上げた服種のカラーズライド7種を用いた。

試料Dグループ;図2に示したような試料Cよりもファッション性に富んだスタイル<sup>4)</sup>として服装雑誌より選出した7種をカラーズライドに仕上げたものを用いた。

これらA, B, C, Dグループ各7種ずつの計28種のスライドを用いて実験を行った。

## 2. イメージ用語

イメージ用語としては、本学学生 (19~20才) 30名により、自分達が服装を評価するのに用



図2 試料 D

いる形容詞を思いつく限りあげさせた結果、表2に示したような110語が得られた。これらの中から中村一男氏著の反対語大辞典<sup>5)</sup>を参考に、下線で示したような反対語の存在する用語を取り上げ、計44形容詞対を両極性評定尺度として選出した。なお検査にあたって、イメージ用語の提示順位は、順序効果がおきないように考慮するとともに、両極性評定尺度の左右の位置関係についても偏りがないように配慮した。

### 3. 検査方法

検査は通常のSD法の5段階評定のように、中心を「どちらでもない」にしないで、「非常に、やや、中間、やや、非常に」の5段階とし、更に「判断できない」という項目を別に設けて、どうしても判断できないと思われる試料については、そこに回答させた。

被験者は、先のイメージ用語選出時とは異なる30名の本学学生（19～21才）を用い、試料の提示は1試料ずつランダムにプロジェクターにより、ほぼ等身大に投影した。なお1試料の提示時間は約2分程度であった。

表2 イメージ用語

1. 明 <u>る</u> <u>い</u>	29. 格 <u>好</u> <u>い</u> <u>い</u>	57. <u>ス</u> <u>マ</u> <u>ー</u> <u>ト</u> <u>な</u>	85. <u>古</u> <u>い</u>
2. <u>あ</u> <u>か</u> <u>ぬ</u> <u>け</u> <u>た</u>	30. <u>カ</u> <u>ジ</u> <u>ユ</u> <u>ア</u> <u>ル</u> <u>な</u>	58. <u>清</u> <u>潔</u> <u>な</u>	86. <u>不</u> <u>格</u> <u>好</u> <u>な</u>
3. <u>鮮</u> <u>や</u> <u>か</u> <u>な</u>	31. <u>活</u> <u>動</u> <u>的</u> <u>な</u>	59. <u>清</u> <u>楚</u> <u>な</u>	87. <u>平</u> <u>凡</u> <u>な</u>
4. <u>暖</u> <u>か</u> <u>い</u>	32. <u>か</u> <u>わ</u> <u>い</u> <u>い</u>	60. <u>静</u> <u>的</u> <u>な</u>	88. <u>変</u> <u>な</u>
5. <u>新</u> <u>し</u> <u>い</u>	33. <u>感</u> <u>じ</u> <u>の</u> <u>い</u> <u>い</u>	61. <u>セ</u> <u>ク</u> <u>シ</u> <u>ー</u> <u>な</u>	89. <u>不</u> <u>調</u> <u>和</u> <u>な</u>
6. <u>ア</u> <u>ダ</u> <u>ル</u> <u>ト</u> <u>な</u>	34. <u>キ</u> <u>ザ</u> <u>な</u>	62. <u>洗</u> <u>練</u> <u>さ</u> <u>れ</u> <u>た</u>	90. <u>ボ</u> <u>ー</u> <u>イ</u> <u>ッ</u> <u>シ</u> <u>ユ</u> <u>な</u>
7. <u>暑</u> <u>苦</u> <u>し</u> <u>い</u>	35. <u>き</u> <u>ち</u> <u>ん</u> <u>と</u> <u>し</u> <u>た</u>	63. <u>セ</u> <u>ン</u> <u>ス</u> <u>の</u> <u>い</u> <u>い</u>	91. <u>ま</u> <u>ぶ</u> <u>し</u> <u>い</u>
8. <u>艶</u> <u>や</u> <u>か</u>	36. <u>機</u> <u>能</u> <u>的</u> <u>な</u>	64. <u>ダ</u> <u>サ</u> <u>イ</u>	92. <u>丸</u> <u>み</u> <u>の</u> <u>あ</u> <u>る</u>
9. <u>ア</u> <u>ン</u> <u>バ</u> <u>ラ</u> <u>ン</u> <u>ス</u> <u>な</u>	37. <u>奇</u> <u>抜</u> <u>な</u>	65. <u>だ</u> <u>ら</u> <u>し</u> <u>な</u> <u>い</u>	93. <u>み</u> <u>っ</u> <u>と</u> <u>も</u> <u>な</u> <u>い</u>
10. <u>い</u> <u>い</u>	38. <u>き</u> <u>ま</u> <u>っ</u> <u>た</u>	66. <u>単</u> <u>純</u> <u>な</u>	94. <u>醜</u> <u>い</u>
11. <u>粹</u> <u>な</u>	39. <u>奇</u> <u>妙</u> <u>な</u>	67. <u>調</u> <u>和</u> <u>し</u> <u>た</u>	95. <u>み</u> <u>す</u> <u>ぼ</u> <u>ら</u> <u>し</u> <u>い</u>
12. <u>生</u> <u>き</u> <u>生</u> <u>き</u> <u>し</u> <u>た</u>	40. <u>き</u> <u>れ</u> <u>い</u> <u>な</u>	68. <u>強</u> <u>い</u>	96. <u>見</u> <u>苦</u> <u>し</u> <u>い</u>
13. <u>田</u> <u>舎</u> <u>く</u> <u>さ</u> <u>い</u>	41. <u>嫌</u> <u>い</u> <u>な</u>	69. <u>冷</u> <u>た</u> <u>い</u>	97. <u>妙</u> <u>な</u>
14. <u>今</u> <u>風</u> <u>な</u>	42. <u>く</u> <u>さ</u> <u>い</u>	70. <u>つま</u> <u>ら</u> <u>な</u> <u>い</u>	98. <u>目</u> <u>立</u> <u>っ</u> <u>た</u>
15. <u>色</u> <u>っ</u> <u>ぼ</u> <u>い</u>	43. <u>暗</u> <u>い</u>	71. <u>動</u> <u>的</u> <u>な</u>	99. <u>珍</u> <u>し</u> <u>い</u>
16. <u>う</u> <u>っ</u> <u>と</u> <u>う</u> <u>し</u> <u>い</u>	44. <u>け</u> <u>ば</u> <u>け</u> <u>ば</u> <u>し</u> <u>い</u>	72. <u>年</u> <u>寄</u> <u>り</u> <u>じ</u> <u>み</u> <u>た</u>	100. <u>安</u> <u>い</u>
17. <u>美</u> <u>し</u> <u>い</u>	45. <u>こ</u> <u>ざ</u> <u>っ</u> <u>ぱ</u> <u>り</u> <u>し</u> <u>た</u>	73. <u>ド</u> <u>レ</u> <u>ッ</u> <u>シ</u> <u>ー</u>	101. <u>柔</u> <u>ら</u> <u>か</u> <u>い</u>
18. <u>エ</u> <u>レ</u> <u>ガ</u> <u>ン</u> <u>ト</u> <u>な</u>	46. <u>個</u> <u>性</u> <u>的</u> <u>な</u>	74. <u>と</u> <u>ん</u> <u>で</u> <u>も</u> <u>な</u> <u>い</u>	102. <u>野</u> <u>暮</u> <u>っ</u> <u>た</u> <u>い</u>
19. <u>女</u> <u>ら</u> <u>し</u> <u>い</u>	47. <u>子</u> <u>供</u> <u>っ</u> <u>ぼ</u> <u>い</u>	75. <u>ナ</u> <u>ウ</u> <u>イ</u>	103. <u>ユ</u> <u>ニ</u> <u>ー</u> <u>ク</u> <u>な</u>
20. <u>男</u> <u>ら</u> <u>し</u> <u>い</u>	48. <u>さ</u> <u>わ</u> <u>や</u> <u>か</u> <u>な</u>	76. <u>似</u> <u>合</u> <u>う</u>	104. <u>夢</u> <u>の</u> <u>あ</u> <u>る</u>
21. <u>オ</u> <u>ー</u> <u>ソ</u> <u>ド</u> <u>ク</u> <u>ス</u> <u>な</u>	49. <u>渋</u> <u>い</u>	77. <u>似</u> <u>合</u> <u>わ</u> <u>な</u> <u>い</u>	105. <u>弱</u> <u>い</u>
22. <u>大</u> <u>人</u> <u>っ</u> <u>ぼ</u> <u>い</u>	50. <u>地</u> <u>味</u> <u>な</u>	78. <u>派</u> <u>手</u> <u>な</u>	106. <u>レ</u> <u>ト</u> <u>ロ</u> <u>的</u> <u>な</u>
23. <u>お</u> <u>も</u> <u>し</u> <u>ろ</u> <u>い</u>	51. <u>シ</u> <u>ッ</u> <u>ク</u> <u>な</u>	79. <u>華</u> <u>や</u> <u>か</u> <u>な</u>	107. <u>ロ</u> <u>マ</u> <u>ン</u> <u>チ</u> <u>ッ</u> <u>ク</u> <u>な</u>
24. <u>お</u> <u>と</u> <u>な</u> <u>し</u> <u>い</u>	52. <u>シ</u> <u>ン</u> <u>プ</u> <u>ル</u> <u>な</u>	80. <u>ば</u> <u>ば</u> <u>く</u> <u>さ</u> <u>い</u>	108. <u>ル</u> <u>ー</u> <u>ズ</u> <u>な</u>
25. <u>お</u> <u>し</u> <u>ゃ</u> <u>れ</u> <u>な</u>	53. <u>好</u> <u>き</u> <u>な</u>	81. <u>フ</u> <u>ィ</u> <u>ッ</u> <u>ト</u> <u>し</u> <u>た</u>	109. <u>ラ</u> <u>フ</u> <u>な</u>
26. <u>お</u> <u>ち</u> <u>ゃ</u> <u>め</u> <u>な</u>	54. <u>素</u> <u>敵</u> <u>な</u>	82. <u>フ</u> <u>ェ</u> <u>ミ</u> <u>ニ</u> <u>ン</u> <u>な</u>	110. <u>若</u> <u>々</u> <u>し</u> <u>い</u>
27. <u>お</u> <u>か</u> <u>し</u> <u>い</u>	55. <u>素</u> <u>晴</u> <u>ら</u> <u>し</u> <u>い</u>	83. <u>フ</u> <u>ォ</u> <u>ー</u> <u>マ</u> <u>ル</u> <u>な</u>	
28. <u>か</u> <u>た</u> <u>い</u>	56. <u>ス</u> <u>ポ</u> <u>ー</u> <u>テ</u> <u>ィ</u>	84. <u>不</u> <u>潔</u> <u>な</u>	

得られた評価について、形容詞対ごとに「判断できない」と回答された割合を算出するとともに、各形容詞対共に「判断できない」という回答をのぞく5段階の評価について5～1の数値を与え、平均官能量を算出した。

## 結果および考察

### 1. 判断しにくい形容詞対

まず被験者が「判断できない」と回答した割合を試料別に表3に示した。「判断できない」と判定された形容詞対は、試料AおよびB、すなわちモノクロームおよび色彩のみの試料にかなり多く、全ての被験者が判断できたのは、44形容詞対中モノクロームで14形容詞対、色彩のみを変化させた試料で10形容詞対であった。モノクロームで特に判断しにくい形容詞対としては、明るい—暗いが15.7%、あかぬけた—どろくさいが13.3%、強い—弱いが12.4%、洪い—けばけばしいが11.9%、あたたかい—冷たいが10.5%であり、更に、その他に地味な—派手な、調和した—不調和な、洗練された—生硬な、エレガントな—インエレガントな、スポーティードレッシ—可愛い—憎らしい、美しい—醜い、女らしい—男らしい等も5%以上の被験者が判断できないと回答している。また、色彩のみの試料では、今風な—昔風なが16.2%、エレガントな—インエレガントなが15.7%、ルーズな—フィットしたが13.3%、大人っぽい—子供っぽいが11.9%、単純な—複雑なが11.4%と特に高い割合を示し、更に、女らしい—男らしい、洪い—けばけばしい、スポーティードレッシ—カジュアルな—フォーマルなも5%以上の出現率を示している。

なお、試料CおよびDの色彩と形態の合成された試料については「判断できない」と判定された形容詞対は、試料A・Bに比べると、わずかであるが、やはり平凡な服種の試料Cよりファッション性の高いDの方が「判断できない」という形容詞対は少なくなっている。

また、特に色彩のみの試料では判断しやすいが、形態のみの試料において判断しにくい形容詞対としては、明るい—暗い、あかぬけた—どろくさい、あたたかい—冷たい、地味な—派手な等があげられ、逆に色彩のみの試料で判断しにくい形容詞対としては、今風な—昔風な、大人っぽい—子供っぽい、単純な—複雑な、ルーズな—フィットした等があげられる。更に、両試料共に判断しにくい形容詞対としては、エレガントな—インエレガントな、洪い—けばけばしい等があげられ、これらの形容詞対は試料Cにおいても「判断できない」という回答が出現している。

### 2. モノクロームとカラーとの関係

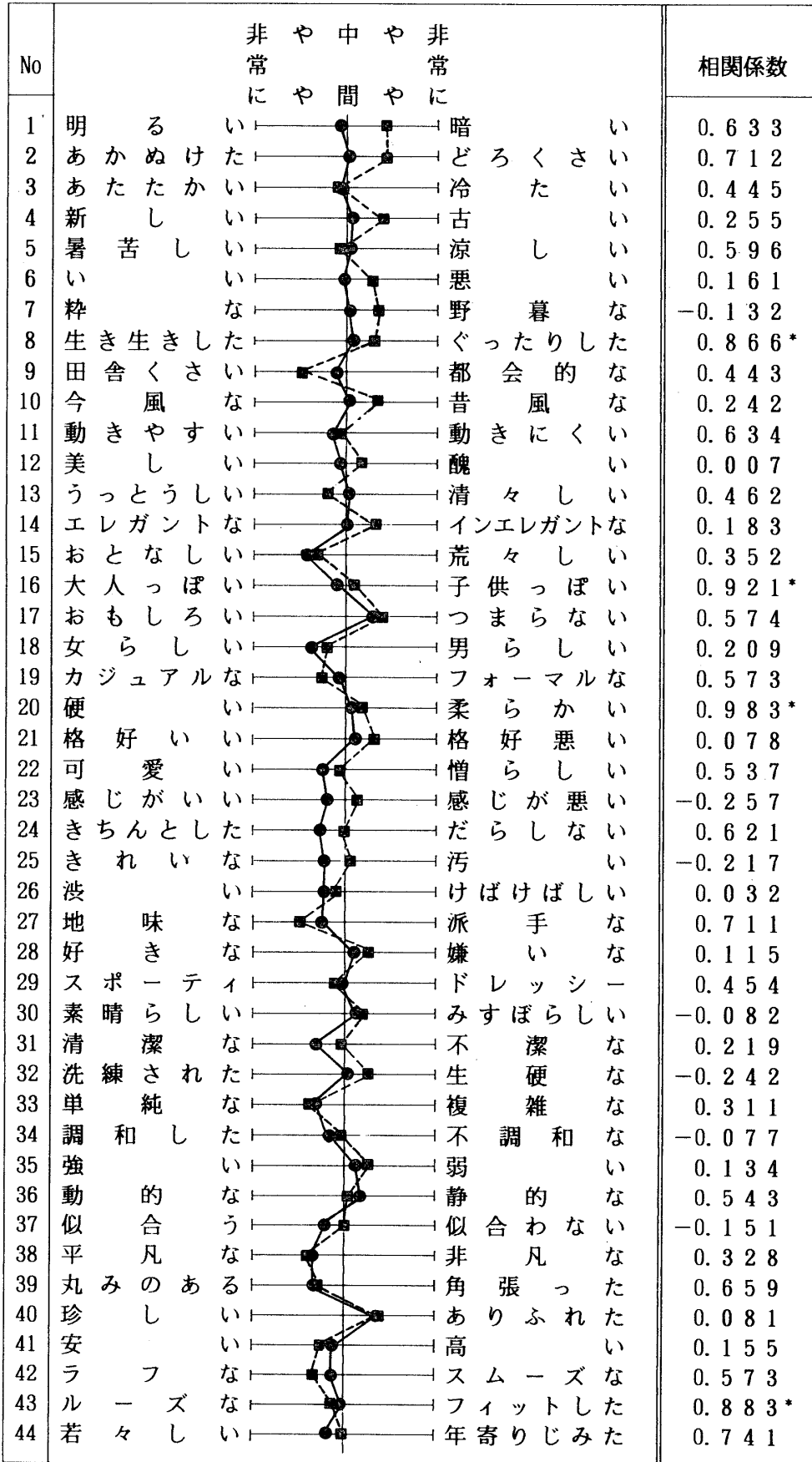
次に、同じ服種のモノクロームとカラーライドの30名の平均官能量について各7種の試料の平均値、および相関係数を図3に示した。図中、実線は試料Aを、破線は試料Cを示している。これらは同じ形態の服種であるにもかかわらず、色彩の有無により官能量にかなりの差が認められ、特に明るい—暗い、あかぬけた—どろくさい、新しい—古い、いい—悪い、粋な—野暮な、生き生きした—ぐったりした、田舎くさい—都会的な、エレガントな—インエレガントな、感じがいい—感じが悪い、清潔な—不潔な等が大きく離れており、カラーの試料の方が明るい、あかぬけた、新しい、いい、粋な、生き生きした、都会的な、エレガントな、感じがいい、清潔なといった良い評価を得ているといえる。

また、各形態毎の相関係数において、最も高い相関が得られたのは、硬い—柔らかいであり、その数値は0.983、次いで、大人っぽい—子供っぽいが0.921、ルーズな—フィットしたが0.833、生き生きした—ぐったりしたが0.866と続いているが、5%の危険率で相関係数に有意

表3 判断できないと回答された比率

(%)

No	形 容 詞 対	試料A	試料B	試料C	試料D
1	明 る い—暗 い	15.7	1.0	0	0
2	あかぬけた—どろくさい	13.3	2.4	0	0
3	あたたかい—冷たい	10.5	1.0	0.5	0
4	新し—古	1.4	1.0	0	0
5	暑 苦 し—涼 し	0.5	0	0	0
6	い—悪 い	0	0	0	0
7	粹 な—野 暮 な	3.3	3.8	0	0
8	生き生きした—ぐったりした	1.0	1.0	0.5	0
9	田舎くさい—都会的	0	0.5	0	0
10	今風—昔風	0	16.2	0	0
11	動きやすい—動きにくい	0	0	0	0
12	美 しい—醜 い	5.2	2.9	0.5	0
13	うっとうしい—清々しい	1.0	0.5	1.0	0.5
14	エレガント—インエレガント	6.9	15.7	1.9	0
15	おとなしい—荒々しい	0	1.4	0	0
16	大人っぽい—子供っぽい	1.9	11.9	0	0
17	おもしろい—つまらない	0.5	0.5	0	0
18	女らしい—男らしい	5.2	7.6	2.4	0
19	カジュアル—フォーマル	2.4	5.2	1.0	0
20	硬い—柔らかい	0.5	0.5	0	0
21	格 好 い—格 好 悪 い	0.5	2.4	0	0
22	可 愛 い—憎 ら し い	5.7	2.9	1.9	0.5
23	感じがいい—感じが悪い	0	1.9	0	0
24	きちんとした—だらしない	0	3.3	0	0
25	きれいな—汚い	0.5	0.5	0	0
26	渋い—けばけばしい	11.9	7.6	2.4	1.0
27	地味—派手	9.0	0	0	0
28	好き—嫌い	1.0	1.0	0	0
29	スポーティ—ドレッシー	6.2	6.7	1.4	0
30	素晴らし—みすぼらしい	0.5	4.8	0	0
31	清潔—不潔	0	0	0	0
32	洗練された—生硬	7.7	3.8	0.5	0
33	単純—複雑	0	11.4	0	0
34	調和—不調和	9.0	4.3	0	0
35	強—弱	12.4	0	0	0
36	動的—静的	0	0	0	0
37	似合—似合わない	0.5	0	0	0
38	平凡—非凡	0.5	1.0	0	0
39	丸みのある—角張った	0	1.4	0	0
40	珍らしい—ありふれた	0	0	0	0
41	安—高	0.5	0	0	0
42	ラフ—スムーズ	1.0	1.0	0	0
43	ルーズ—フィットした	0	13.3	0	0
44	若々しい—年寄りじみた	1.0	2.4	0	0



■—■ モノクローム ●—● カラー \*有意水準 5%

図3 モノクロームとカラーの官能量・相関係数

性が認められたのは、44形容詞対中、これら4形容詞対のみであり、残りの40形容詞対については有意な相関は得られず、色彩のない試料の官能量が実際の服装の官能量と結びつきにくいという結果であった。更に、非常に相関の低い形容詞対の中にはマイナスの係数を示しているものもあり、調和した—不調和な、素晴らしい—みすばらしい、粋な—野暮な、似合う—似合わない、きれいな—汚い、洗練された—生硬な、感じがいい—感じが悪い等の7形容詞対があげられる。これらの形容詞対は全ていわゆる評価の因子を持つ形容詞対ばかりであり、特に評価の因子を持つ形容詞対については、形態だけでなく、色彩の存在する試料を用いなければ正しい評価が得られないといえる。

### 3. 因子分析結果

この種の研究で、かなり頻繁に用いられている因子分析による形容詞対のグループ化において、試料の色彩の有無や形態の違いがどのように影響するかについて検討するために、試料A、C、Dについて主因子解法により因子分析を行い、バリマックス回転後の因子負荷量によって形容詞対を分類したものを図4に示した。なお、因子数は固有値1.0以上の因子について抽出し、分類にあたっては、因子負荷量0.60以上の数値を基にした。

試料Aのモノクロームの試料においては、固有値1.0以上で第4因子まで抽出され、その累積寄与率は95.1%であった。まず第1因子では、調和した—不調和な、今風な—昔風な、新しい—古い、美しい—醜い、似合う—似合わない等、評価の因子を持つ形容詞対が中心になって抽出されている。第2因子では、動的な—静的な、男らしい—女らしい、スポーティードレッシー、強い—弱い、動きやすい—動きにくい等が高い負荷量を示し、活動性と力量性の両方の因子が出現しているといえる。また第3因子においては、子供っぽい—大人っぽい、柔らかい—硬い、丸みのある—角ばった、ルーズな—フィットした、若々しい—年寄りじみた等、年齢と関連する用語やシルエットの因子をもつ形容詞対が高い負荷量を示している。なお、第4因子では暑苦しい—涼しいが単独で出現している。

次に、試料Cにおける第1因子では、格好いい—格好悪い、いい—悪い、あかぬけた—どろくさい、新しい—古い等、試料Aと同じく全体的には評価の因子をもつ形容詞対が高い負荷量を示しているといえる。しかし、試料Aにおいては、第2因子の活動性、力量性の因子をもつ形容詞対と共に抽出された珍しい—ありふれた、複雑な—単純な、非凡な—平凡な、派手な—地味な等の形容詞対は色彩が加わることによって評価の因子とともに抽出されている。第2因子では、スポーティードレッシー、動きやすい—動きにくい、カジュアルな—フォーマルな、動的な—静的な等の活動の因子をもつ形容詞対が高い負荷量を示しているが、モノクロームに比べ、かなり活動性の因子の強い形容詞対に限られて出現しているといえる。また、第3因子においては、暑苦しい—涼しい、あたたかい—冷たい、うっとりしい—清々しい、けばけばしい—渋い、明るい—暗い等、温湿度感に関する因子をもつ形容詞対がまとまって抽出されるという結果であった。第4因子においては可愛い—憎らしい、丸みのある—角張った、若々しい—年寄りじみた、柔らかい—硬い、子供っぽい—大人っぽい等の試料Aの第3因子と同じ形容詞対が高い負荷量を示している。また第5因子においては、清潔な—不潔なが単独で出現するという結果であった。

試料Dについて、第1因子では、素晴らしい—みすばらしい、きちんとした—だらしない、きれいな—汚い、美しい—醜い等の試料A・Cと同様、評価の因子を持つ形容詞対が高い負荷量を示し、第2因子においては、動的な—静的な、カジュアルな—フォーマルな、男らしい—女らしい等の活動性の因子をもつ形容詞対が高い負荷量を示している。また第3因子において

第 1 因子 (45.5%)	
*調和	し
*新風	し
*美し	し
*似合	き
*好会	的
*格練	さ
*都あ	ぬ
*洗晴	々
*粹あ	ら
*素清	々
*清き	れ
*感高	じ

第 2 因子 (75.9%)	
*動的	な
*男らし	い
*ス強	ポ
*動き	や
*明非	凡
*派あ	荒
*カ荒	た
*ラジュ	ア
*生ジュ	フ
*イン	エ
*珍だ	ら
*お復	も

第 3 因子 (87.3%)	
*子供	っ
*柔ら	か
*丸み	の
*ル若	々
*可愛	い

第 4 因子 (95.1%)	
暑	苦
し	い
い	涼
い	し

\*は共通して出現した形容詞対  
( )は累積寄与率

試料 A

第 1 因子 (42.4%)	
*格好	い
*好い	い
*かぬ	け
*あぬ	け
*新都	会
*調和	的
*素晴	ら
*洗練	じ
*粋あ	も
*高し	し
*似合	し
*珍雑	凡
*複手	派

第 2 因子 (74.6%)	
*スポ	ー
*動き	や
*ス動	キ
*男動	的
*ラ荒	々
*イン	エ
*生汚	ル

第 3 因子 (84.3%)	
暑	苦
あ	た
う	け
け	ば
明	る

第 4 因子 (92.2%)	
*可愛	い
*丸み	の
*若々	し
*柔ら	か
*子供	っ
*だ弱	い

第 5 因子 (97.8%)	
清	潔
な	不
な	潔
な	な

試料 C

第 1 因子 (43.3%)	
*素晴	ら
*きち	れ
*美し	し
*格好	い
*好合	し
*似合	し
*調和	し
*洗練	さ
*感粋	じ
*清清	々
*新清	々
*清フ	単
*涼お	涼

第 2 因子 (74.2%)	
*動的	な
*カジュ	ア
*男ポ	ー
*ス男	動
*若々	し
*動き	や
*イン	エ
*安フ	子
*ラ子	供

第 3 因子 (86.8%)	
強	派
け	ば
ど	ろ
非	凡
珍	し

第 4 因子 (94.0%)	
*あ丸	た
*可丸	の
*田舎	る
*明ら	か
*柔ら	か

第 5 因子 (98.0%)	
今	風
お	も
し	ろ
い	い

試料 D

図4 因子分析結果



は、強い—弱い、派手な—地味な、けばけばしい—渋いなど強さ、派手さに関する形容詞対が出現し、第4因子においてはあたたかい—冷たい、丸みのある—角張った、可愛い—憎らしい等柔らかさの因子をもつ形容詞対が出現している。更に第5因子では、今風な—昔風な、おもしろい—つまらないの2形容詞対が高い負荷量を示しており、第1、第2因子以外は試料Cとかなり異なったグループ化となっている。

また、この種の研究における因子分析で、度々独立して抽出されるあたたかい—冷たいについては<sup>6)7)</sup>試料Aでは、活動性の因子を持つ形容詞対の中に出現し、試料Cにおいては、温湿度感の因子の中に、更に試料Dでは丸みのある、可愛い、田舎くさい、明るいといった形容詞対と共に出現しており、試料によって語句そのものの捉え方がかなり異なるものと考えられる。

これらの因子分析結果より、A・C・Dすべての試料について、評価の因子として共通に抽出された形容詞対としては、格好いい—格好悪い、好きな—嫌いな、いい—悪い、新しい—古い、調和した—不調和な、素晴らしい—みすぼらしい、洗練された—生硬な、感じがいい—感じが悪い、粹な—野暮な、美しい—醜い、似合う—似合わないの11形容詞対があげられ、活動性の因子を持つ形容詞対としては、スポーティードレッシー、動きやすい—動きにくい、カジュアルな—フォーマルな、動的な—静的な、男らしい—女らしい、ラフな—スムーズな、インエレガントな—エレガントな、生き生きした—ぐったりしたの8形容詞対が抽出された。更に可愛い—憎らしい、丸みのある—角ばった、柔らかい—硬いの3形容詞対が別に共通して抽出されている。従って、残りの22形容詞対については、今回の試料においても出現に差がかなりあり、取り扱われる試料の質によって、変動し易い形容詞対であり、試料の特徴の出やすい形容詞対であると考えられる。

## 要 約

被服の分野における官能検査で用いられるイメージ用語の適否をチェックするために、形態のみで色彩のないモノクロームの試料、色彩のみを変化させた試料、形態と色彩の合成された試料等、質の異なる試料を用いて44形容詞対について官能検査を行った結果、特に、モノクロームの試料および色彩のみの試料の場合に被験者が判断しにくい形容詞対がかなり存在することが明らかになった。これらの回答は、これまでのSD法による検査の中では、何れかの評定段階に回答されていたわけで、その後の数値化にも微妙にかかわってくると考えられる。

また、同じスタイルであっても、色彩のある場合と、ない場合の評価に有意な相関が得られたのは、44形容詞対中4形容詞対のみであり、特に評価の因子をもつ形容詞対においては、負の相関さえ示すものもあり、モノクロームのイメージが実際の服装のイメージにはつながらない場合が多いという結果であった。

更に因子分析を行った結果、44形容詞対の中で評価の因子をもつと考えられる11形容詞対、活動性の因子をもつ8形容詞対、および可愛い—憎らしい、丸みのある—角ばった、柔らかい—硬いの3形容詞対が今回用いた試料の中では共通して抽出され、残りの22形容詞対については、試料の質によって出現のしかたがかなり異なっていた。

従って、今後イメージ用語を用いて研究を行う場合には、取り扱う試料に応じて用いる形容詞対の検討、選択が必要であると考えられる。

最後にカラーシミュレーション装置による試料Bの作成にあたって御協力下さいました椋山女学園大学、加藤雪枝教授に深く感謝いたします。

## 引用文献

- 1) 石塚純子, 加藤雪枝, 梶山藤子: 家政誌, **38**, 321 (1987)
- 2) 吉田正昭: 心理統計学, 272, 丸善 (1976)
- 3) 岩下豊彦: S D法によるイメージの測定, 4~30, 川島書店 (1987)
- 4) 石原久代, 酒井清子: 衣生活研究, **14**, 53 (1987)
- 5) 中村一男: 反対語大辞典, 東京堂出版, (1987)
- 6) 石原久代, 加藤雪枝, 梶山藤子: 織消誌, **21**, 348 (1980)
- 7) 石原久代, 栃原きみえ, 梶山藤子: 織消誌, **26**, 33 (1985)
- 8) 藤原康晴, 川端澄子: 家政誌, **40**, 287 (1989)